



# 里公小だより

【教育目標】

学びとる子 思いやる子 きたえる子

R5年11月

## 学習の成果を発表しました



1年生「ゆきとつばめ きゆうしゅつ大さくせん」



2年生「にじいろ学年やさい劇」



3年生「ショートドラマ」&パフォーマンス



4年生「上江用水と下鳥富次郎」



5年生「お米の大切さをつたえよう！」



6年生「戦国時代へタイムスリップ」

昨年度まで文化祭は音楽発表会と絵画展でしたが、今年度は学習発表会にリニューアルしました。学習や体験の成果を、歌、劇、プレゼンテーション、合奏、ダンス、体操、パフォーマンス、物まね、仮装、小道具、BGM等、様々な表現方法で、会場の保護者や地域の皆さんや他学年の児童に披露しました。みんなで一つのものを作り上げる経験は、子どもたちの心を育てます。体育館は、生き生きと表現する子どもたちの姿と、笑い声や「へー」「なるほど」といった温かい反応に満たされ、ステージ上の子とフロアーの人々が「みんなで笑顔」になれる時間と空間になりました。

# しなやかに たくましく

校長 小島 淳

ストレス (stress) はもともと工学用語で「外的圧力によって生じる物体の歪み」という意味で、ストレス要因 (外的圧力)、ストレス反応 (歪み) ストレス耐性 (形を保つ力・元に戻ろうとする力) の3つが含まれます。私たちは、「ストレスが溜まる」といったように、ストレス要因 (外的圧力) の意味でストレスという言葉を使っています。

ダメージや困難から回復する力という意味で、近年レジリエンス (resilience) という言葉が使われるようになりました。もともとは物理学用語で「弾力」「弾性」を意味します。野口聡一宇宙飛行士が搭乗する宇宙船をレジリエンスと命名したことが話題となりました。

私たちをとりまく環境は急速に変化し、将来の予測が困難な時代となりました。今までの価値観や方法では通用しない場面が増えています。そこで求められる力は、変化に対応する力、多様性を受け入れるコミュニケーション力、最適解を導き出す問題解決力です。それには、思いがけないストレスを受けた後に、そのダメージをしなやかに、またはたくましく乗り越える力 (レジリエンス) が大きく関わっています。

批判や困難の解決の視点で人を分類してみます。あくまで私見です。

【タイプ1】 批判や困難を正面から受け止め、それを跳ね返す自信や実力がある人。

【タイプ2】 批判は「行動や選択の間違いの指摘であり、自分の存在を否定されたわけではない」と問題を切り離し、改善のために注力する人

【タイプ3】 ダメージを受けるが、精神的再建を試み協力者を得て解決する人

【タイプ4】 批判や困難の原因と解決を周囲に求め、ダメージを受けず動かない人。

【タイプ5】 批判や困難を正面から受け止め、傷つき動けなくなる人。助けを待つ人

タイプ1の人は稀にお会いしますが、とても同じようにできません。タイプ2には、考え次第でできそうな気がします。タイプ3は、池井戸潤氏の小説の登場人物のように反撃とまでは行きませんが、やはり何とかできそうです。タイプ4に私はなりたくないですし、タイプ5は苦しいと思います。

レジリエンスは教育で高められるとされています。学校で伸ばすことができるのは、タイプ3だと私は考えます。教室では、様々な困難が大なり小なり毎日生じます。その解決マニュアルなど存在しません。困難は、自分がまずそれに向い合わなければ解決に進みません。でも自分の力だけでは限界があります。だから、「みんなで笑顔になろう」なのです。みんなで問題に向かい、支え合い、一つ一つ乗り越える経験を積んで、共にレジリエンスを高めて行くことが大切なのだと思います。



校門の柳のように、しなやかにたくましく伸びていきたいものです。

## 読書週間



学校司書の読み聞かせ、図書委員による手作りしおり、子どもや教師によるおすすめの本の紹介等、本と親しむ活動が行われています。新しい物語との出会いの機会になりました。

## 鉄棒週間



体育館に期間限定で鉄棒コーナーができました。「逆上がり」「地球回り」「グライダー」など鉄棒カードの技ができるようになると、休み時間に頑張っている練習をしています。

## 閉校記念事業実行委員会の立ち上げ

令和7年3月に里公小学校は114年の歴史に幕を閉じます。里公小学校後援会を中心に閉校記念事業実行委員会の立ち上げに向けて準備が進んでいます。これまで計4回の打合せ会が行われ、来年1月から事業が始まる予定です。地域や保護者の皆様にご協力いただくことが多々出てくると思います。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

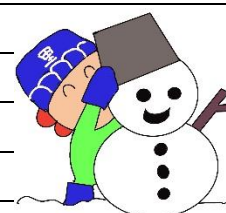
## 統合実行委員会の報告

11月13日(月)の小学校統合実行委員会全体会議で、新しい学校の名称が「三和小学校」に決まりました。正式には3月の上越市議会で決定となりますが、今後は三和小学校統合実行委員会として準備を進めていくこととなります。

三和小学校の校歌の歌詞のキーワードと校章デザインの募集が始まります。子どもの応募用紙の提出先は、児童玄関に設置される応募箱です。お家の方の応募用紙もその応募箱にお出しいただけます。

## 12月の予定

	行 事 等
11月30日(金)	個別懇談会(希望者) (～12月4日)
4日(月)	人権週間(～10日)
6日(水)	図書ボランティア読み聞かせ6年
7日(木)	委員会活動
8日(金)	いじめ見逃しゼロスクール集会
11日(月)	新潟県冬の交通事故防止運動(～20日)
14日(木)	委員会活動
15日(金)	期末大清掃(～20日)
18日(月)	地域児童会
22日(金)	2学期終業式
29日(金)	閉庁日(～1月3日)
1月9日(火)	3学期始業式



## 持久走記録会



熱中症対策のため、昨年度より1か月遅い持久走記録会となりました。学習発表会が終わってからの練習となったので、すこし練習期間が少なくなっていました。しかし、休み時間に黙々と走り込む子どもたちの姿がありました。走っている間は自分と向き合う時間となります。「つらい」「苦しい」「わき腹が痛い」「今走るのを止めたら楽になれるな」「最後まで頑張りたい」「負けたくない」「あと1周…」いろいろな気持ちが子どもたちの中に渦巻いていたと思います。それを乗り越えて走り終えた子どもたちの表情はとても晴れやかでした。

## 水星への夢をのせて



11月9日(木)、JAXA宇宙科学研究所名誉教授の早川基さんをお招きし、4・5・6年生に宇宙の話をしていただきました。早川さんは、水星探査「ベピコロポ」のプロジェクトマネージャーを務めていた方です。今、早川さんが携わった探査機「みお」は、水星に向けて宇宙を旅しています。水星は、昼と夜の場所の温度差が600℃も違う過酷な環境です。過酷な環境に耐え得る探査機の開発は試行錯誤の連続だったようです。また、限られた燃料で水星に到達するために水星と金星の重力を利用して7年かけて加速と減速を行います。それには、惑星の公転周期と探査機の進路を同期させる緻密な計算とプログラミングが必要です。たくさんの困難に挑戦してきた早川さんのお話は難しいところがありましたが、夢やロマンが詰まっていました。興味深い話の一つは、水星のクレーターには、「アクタガワ」「ホクサイ」「ディズニー」といった芸術家にちなんだ名前が付けられていることでした。

子どもたちは「へえ」「すごい」とつぶやきながら真剣に話に耳を傾けていました。

「宇宙への関心はあまりなかったが、早川さんの話を聞いて興味が出た」という感想をもった子どもが何人もいました。もしかしたら、将来里公小学校から宇宙に携わる仕事をする人が現れるかもしれません。